

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203212		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームあけぼの1階		
所在地	岡山県倉敷市児島小川9丁目486-1		
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様お一人々に寄り添い、個々の能力に合わせた援助に努める様に心掛けています。 ・入居者様が、楽しく過ごせる様に四季に合わせた創作活動・行事に取り組むようにしており、行事内容も外に出掛けられる様に工夫し、入居者様の希望に少しでも添える様に心掛けています。 ・職員は元より入居者様も明るく、ホーム内の雰囲気良く、見学に来られた方には好評です。 ・母体が医療機関の為、医師・看護師との連携を図りながら健康管理に努めております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員間のコミュニケーションが良く図られ、管理者を含め何でも話し合うことができる良好な関係性が築けている。勤続年数の長い職員も多く、入居歴の長い利用者も多い。毎日顔を合わせる家族のような雰囲気がある。利用者も職員も笑顔で過ごすことができるよう「思いやり合い・支え合い・助け合い」を目標に「その人らしく生活できる様にゆとりを持って介護に努めましょう」という事業所理念の実践に努めている。管理者は職員の努力と意欲を評価し、研修の充実や、働きやすい就労環境の整備に努めている。食事を一日の大切な活動の一つと捉え、利用者の嗜好や満足度を図りながら、手作りの家庭料理を提供している。一緒に作り、同じテーブルを囲んで会話しながら食事をする風景から、和気あいあいと仲よく助け合う家庭的な雰囲気を感じ取ることができる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき地域の中で、その人らしく居られる様に、ご本人・ご家族を含め支援を行い、尊厳を保ち支援を行っています。	「思いやり合い・支え合い・助け合い」と理念を簡潔にした目標を挙げている。管理者はケア会議等で「入居者と楽しく笑って一日が過ごせるようにお互い補い合いましょう」と伝えている。理念はホールに、目標は事務所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の慰問・児童クラブの方達が継続して慰問に来て頂いており、徐々に顔馴染みになって来ている。また、外部の方に訪問販売(パン)を依頼しており顔馴染みになって来ている。	敬老会やクリスマス会にギター演奏等で楽しませてくれるボランティアの訪問がある。隣接の施設での催しに参加することもある。秋祭りには駐車場にだんじりが来てくれている。利用者は地域の人達との交流や、行事を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方との話す機会を設け相談を受けた場合は認知症について支援方法等をアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、地域の方・民生委員・高齢者支援センター・他グループホームの皆様に出席して頂き、行事報告・意見交換を行い、年4回の身体拘束・虐待の勉強会も行っています。	地域の協力が得られ、民生委員交代時は後任への引継ぎをしてきている。地域住民からの質問や相談に行政からの応答があり、有効な話し合いの場ともなり、会議が活用されている。行事が多く症状緩和に役立っているとの意見をもらっている。	母体病院理事長・院長の参加もあり、地域の理解と支援も得られている。家族にも参加を促して欲しい。家族の視点も交えて話し合うことで、利用者の暮らしを支えるバックアップ体制の強まりに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市と連携し、助言・協力を得てサービス向上に努めている。又、運営推進会議にも参加して頂き、ホームの状況を報告したり介護情報を提供して頂いています。	地域包括支援センター職員・市介護保険課職員の双方が運営推進会議に出席してくれることもある。事業所の実情を理解してくれており、情報の共有を図りながら相談し、指導や助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠必要時には防犯ブザー等で見守り対応を行い、ご希望の入居者様には散歩に出て頂き気分転換を図って頂ける様に支援し、身体拘束必要時には、ご家族へ説明し同意を頂き書面に残しケアを行っている。	行動を制限することなく自由に過ごしてもらい、危ない時に声をかける様にしている。声かけのトーンに気を付け、かん高い声の時はその場で注意を促している。多くの職員が参加できるように、外部から講師を招き研修を行い、研修継続を計画している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いに注意し、精神的な虐待に繋がらない様に職員全員が意識し日頃から話し合っている。GH協会から講師をお招きし法人内研修を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容はまずまず把握出来ていると思われるので、ご相談があれば対応する様に心掛けており、以前後見人になられた司法書士さんとも定期的に連絡を取り合い、いつでも相談できる関係を保っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い疑問等にお答えし、納得された上でサービスを利用して頂いている。改定時には随時、説明し承諾のうえで書面サインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に近況報告を行い、ご意見・ご要望をお聞きし反映できる様に努めている。また、1年に一回は家族会を開催しご家族同士の交流も行えるような環境作りに努めています。	重要な事柄は管理者から伝えるようにし、家族との信頼関係を深め、意見や要望を聞き取るように努めている。家族同士の交流と共に、利用者と家族が一緒にふれあい、楽しんでもらう時間も作りたいとの思いで、家族会の開催に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議前には、業務内容で出席できない職員・発言件の少ない職員等への配慮し、全員が書面参加して頂き会議開催している。必要に応じて代表者とも相談できる様な環境作りに努めています。	会議に先立ち、あらかじめ自分の考えをまとめることで、職員のレベルアップに繋げている。支援方法や業務分担について、職員意見から合議され、改善に向けて検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の就業時間・業務態度の把握に努め、必要に応じて意見・要望を聞くようにし、必要時には代表者へ伝えるようにしている。又、職員の勤務可能時間に合わせた勤務時間を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を開催し参加して貰い、時間の許す限り、外部研修にも出席して貰い、認知症への介護技術の向上に努め、研修後は資料を活用し回覧している。また、日々の業務で利用者に合わせてアドバイス・実技指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの運営推進会議に参加したり、必要に応じて相談・指導を受けたりし、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を把握し、日々の生活で出来る事・出来ない事を見極めながらケアを行い、コミュニケーションを図ることで、ご本人の意欲を汲み取り安心した生活が継続出来る様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の意向をお伺いし、安心した生活を送って頂ける様に心掛け、入居後は面会時に、積極的にお声を掛けさせて頂く事で、親近感を感じて頂き話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のご意向をお伺いし、優先順位を見極め、その時、必要なサービスに配慮し提供する様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事・得意分野を把握し、個々の能力に合わせた個別対応を行い、コミュニケーションを図る事で信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、近況報告を行い、月1回にはお便りも送り、必要に応じて電話でも近況報告を行い、疎遠にならないよう配慮している。春には1年に1回の家族会を開催することで家族同士の交流も行える様に計画しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内の方以外は会う機会は殆ど無いが、遠方からの贈り物が頂いたら、お礼の電話をして頂く様にしている。ご家族には時間の許す限り・節目の時期等には、一緒に外出していただける様に依頼しています。	盆や正月には、自宅で過ごせるよう提案し、家族に依頼することもある。家族と芝居見物や、墓参りに行く人もいる。訪問時は居室でゆっくり過ごしてもらいようにし、家族との時間を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係を把握し、孤立しないように席順に配慮し、日々の生活の中では、職員が間に入る事で入居者様同士が楽しく作業して頂いたり、楽しく会話できるような雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	普段から契約終了後も、気軽に相談出来る様な関係作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を傾聴し思いをお聞きし、可能な限り思いに添うように努め、入居者様同士の会話にも耳を傾け、職員が聞けてない内容の時は、職員間で情報を共有し必要に応じて問題解決に努めている。	居室で職員と1対1で過ごしている時や、入浴等の寛いだ時間に、本音を聞き取ることもある。職員間で検討したり、家族に依頼したりし、聞き取った思いに添えるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族からお伺いしたり、入居後、日々の会話の中からも生活歴を把握するように努め、意味が解らない時はご家族の面会時にお尋ねし、職員間で情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本、好きな場所でお好きな様に過ごして頂き、個々の生活パターンの把握に努め、日々の様子等を随時、記録に残し職員間で情報を共有し、ケアに反映させるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を観察し、問題点があれば、毎月の会議で現状に合った介護の見直しを行い、必要に応じてご家族に相談し、介護計画に反映させている。緊急を要する際には当日職員と管理者が話し合い対応している。	毎日記録しているケアプラン実施表に長期・短期・具体的なケア目標が明記しており、職員は計画を意識した支援に取り組むことができている。進捗状況のチェックはモニタリングに活かされ、カンファレンスで話し合わせ、6か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に日々の様子・会話・気づき等を記録したり、知り得た情報は職員間で共有し、ケアや介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせて、ご家族・医師・看護師等と連携を取り、職員間で話し合い、入居者様のニーズに対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時々に合わせてご家族にも協力依頼し、事前に分かっていたら、近隣やお店の方々に協力依頼を行い、ご本人が望まれる生活を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始前にかかりつけ医の確認を行い、ご本人・ご家族の意向に合わせている。緊急時、他の医療機関を受診する際にも、かかりつけ医・ご家族と密に連絡を取り対応している。	入居前から母体医院を受診し、医師や看護師と馴染みの関係になっている利用者も多い。職員と受診するが、往診対応もできる。日曜を除く毎日の午前中は看護師が勤務に加わり利用者として接し、些細な変化も見逃さないよう対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、入居者様の体調・状態報告を行い、医療的な相談・指導を受け、異常の早期発見に努め、適切な対応が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人・ご家族が安心した治療が受けられるよう些細なことで主治医に報告・相談し、ご家族が入院先に話せない事でも相談を受けたら、状況により病院へ報告・対応を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人・ご家族に暫定的なご意向をお伺いし、重度化の際には、主治医・ご家族・管理者が、今後の治療方針を話し合い、書面に残し、その後、職員間で話し合い、内容に合わせた介護計画を立て支援に努めています。	医師や看護師と24時間の医療連携体制が整っており、いつでも相談することができ、職員も安心して終末期のケアに取り組むことができている。一人ひとり状況が違うので、その都度、勉強会を開き、支援方法を話し合い、方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備しており、個々に勉強が出来るように書籍も設置している。研修にも参加し、資料等は職員間で情報の共有を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に入居者様参加型の避難訓練を年2回行い、合わせて防災訓練も取り入れている。時には、消防関係者にも参加して頂き指導を受け、運営推進会議でも、その旨、報告し「いざ」と言う時は近隣の方へ協力依頼をしている。	火災や災害を想定し、避難経路の確認や、消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。今年度は5月・11月に行った。緊急連絡網も見直している。火災想定時、出火場所によっては避難が難しくなる場合もあり、今後の検討事案となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、言葉掛け・会話等に配慮している。また、個々の性格・状態を把握し、個々に合わせた伝わり易い言葉を使う様に心掛けている。	一人ひとりに合わせた声かけを工夫し、尊厳保持に努めている。排泄の誘導や声かけには、十分な配慮をもって行うようにしている。職員間の申し送り時も小声で話す等、プライバシー保護にも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が気兼ねなく意思表示・自己決定が出来る様な雰囲気作りに努め、その時々に合わせて選択肢を幾つか出して決定して貰う事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は設定しているが、個々の、その時々に合わせてペースで生活が送れる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室に個々に合わせた整容道具を用意しており、ご本人にお任せし、服装も個々で選んで頂いている。又、2ヶ月に1回は訪問理美容を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を把握しメニューに取り入れている。「1対1」で作業を行う事でコミュニケーションが密に図られ、食事準備・片付け等のお手伝いも率先してお手伝いされる方もいらっしゃる。皆さんで協力して日々を過ごされています。	職員が考えた献立を基に、利用者の好みや季節に合わせてメニューを決めている。手作りの家庭料理を提供し、利用者からも好評で、残さず食べてくれている。台所に入り、職員と一緒に準備をする利用者もあり、能力を発揮する場として、手作りの食事を大切な活動の一つと捉えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作成時に、肉・魚・野菜が偏らない様に考慮している。個々に合わせた水分摂取量・食事形態・食事量・器等に配慮し、摂取量を記録し体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔内の状態に合わせて歯磨きの声掛けを行い、居室で行われる方には、ケア後の確認も行っており、歯科治療が必要な方には、ご家族と相談し歯科受診・往診が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	朝食時にヨーグルトを提供し腸内活性の目標に努め、個々のトイレ使用の様子を見ながら声掛けを行い、排泄状況を記録し排泄パターンの把握に努めている。	各居室にトイレ・洗面所があり、排泄のプライバシーは守られている。口腔ケア時にさりげなく声かけをしている。排便の確認が必要なこともあり、止水栓を閉めることもある。状況に合わせて排泄用品の検討を行い、コストを下げる配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、食事メニュー・乳酸菌の摂取に配慮し、日々、体操を行って頂く事で予防にも取り組み、必要に応じて主治医と連携をとり、個々に合った排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員不足の為、定期的入浴が出来ない日があり、状況に合わせて午前入浴・全員入浴日等と工夫し清潔保持に努めています。	週3回の入浴を支援している。ゆっくりと寛いだ気分で入浴できるよう、職員と1対1で過ごす入浴時間を大切にしている。皮膚の乾燥に気を付け、年間を通じて保湿剤を塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせ、居眠りが強い時は、自室での臥床を促し、夜間、空腹の訴え時には状況を見ながら、ホットドリンク・少量の夜食等を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤説明書を専用ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。内服薬変更時には、職員間で情報共有できるようにしている。体調変化時には随時、主治医へ報告・指導を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中で、個々の得意分野を把握し家事作業・創作活動等を行って頂き、気の合う入居者様同士のコミュニケーションにも繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は、希望のある方には対応し、毎月の行事にも配慮し少しでも、外出の機会を設ける様にし、誕生月には希望があれば外食に出掛けたり、節目等ではご家族に協力依頼して外出して頂、日々の個別での外出は職員不足の為、外出が出来ていません。	2～3か月に1回は、全員で外出できるように計画している。季節の花を見に出かけたり、外食を楽しんだりしている。誕生日には希望を聞き、少人数で出かけることもある。受診時に遠回りをして帰ることもあり、近所の散歩で気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを、御家族よりお預かりし、買い物時は一緒に支払いを行い、支出金は個々のお小遣い帳に記載し、ご家族の面会時には確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様宛に手紙・小荷物等が届いた時は、ご本人からお礼の電話が出来る様に支援しており、ご本人が電話を希望される時は、随時、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様同士が不快な思いにならないようにテーブル配置・席順に配慮し、日々、入居者様が手作りされた作品や、行事風景の写真等、見える所に壁面飾りを工夫している。夏場には、中庭にテーブル等を設置し外気浴を行って頂いている。	利用者同士の関わりも多く、状況に合わせてテーブルの配置を変化させ、居心地よく過ごせるように配席を検討している。掃除や手すりの消毒等に気を配り、座席の座布団の洗濯も夜間に行うようにして清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角に和室・ソファがあり、個々で希望される場所で過ごして頂いているが、ほぼ席が決まっておりテーブル席は気が合う方同志が座って頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使っていた家具・生活用品等を持参して頂き、居室に設置して頂き、個々の環境作りに配慮している。	畳・障子・襖の和風の設えは見学者が気に入る要件の一つになっている。照明器具や引き戸にも配慮が感じられる。ソファ・座卓・仏壇等が持ち込まれ、その人らしく居心地よく過ごせる居室となるよう検討されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室入口に、眼に付きやすい位置に表札を設置し、室内には安全に移動できるように家具・ベッド等の配置に配慮し、タンスには衣類の区別が解る様にシールを貼り出来るだけ個人で片付けが出来る様に支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203212		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームけぼの(2ユニット目)		
所在地	岡山県倉敷市児島小川9丁目486-1		
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が母体であるため医師や看護師と連携を図りながら健康管理に努めている。定期的にも必要に応じて適切な検査や治療が受けられる環境にある。
常にコミュニケーションを図りながら入居者様を主体としたケアに努めている。個々の能力や精神状態に合わせた支援を心掛け、季節の行事を取り入れながら、日々の生活が送れるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に法人の理念やホーム独自の目標を掲示し、それに基づいた方針でケアの方向性を決めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、ホーム行事の際に慰問に来ていただいたりしながら地域との交流を図っている。また、併設の老健いこいの家に慰問に来られた際は一緒に楽しまれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して地域の方や地域包括支援センター、介護保険課の方々と認知症について話をしたり、相談を受けた場合は支援方法等をアドバイスをしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動を理解していただくよう事業所の取り組みや行事報告をしたり、地域の情報を教えていただいたりしながら意見交換をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市と連携し、意見や助言、協力を得てサービス向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で知識は深めているが、職員不足の中、徘徊の激しい入居者が外へ出ようとされる時はできるだけ付き添っている。しかし、毎回はついていけないので時には行動制限したり、他入居者様のケアもあるので一時的に通用口を施錠したりすることがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待に関する知識を深めている。声かけなど些細なことでも虐待にあたるものは多いので、職員間でも声をかけ合い、補い合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば参加しているが、成年後見制度を利用されている利用者様がいないかたり、ご家族が活用されていたりするので職員の理解は乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、納得していただいた上でサービスを開始している。改定等サービス変更の際も随時、説明し、承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に話しやすい雰囲気作りを心掛けながらご家族には面会時に近況報告すると共に、要望等をお伺いしている。入居者様には日々の関わりの中で要望等の把握、想いを汲み取るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、職員の意見や要望を聞き、また、月1回のケア会議を活用し、職員が意見交換しやすい場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に職員の就業時などの様子を把握すると共に意見や要望を聞き、相談にのるようにしている。内容によっては代表者に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修へ参加する機会を設け、ケア技術の向上に努めている。また、働きながら資格取得ができるよう必要であれば勤務調整も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの運営推進会議に参加したり、研修等で他施設の方と交流する機会を活用したりしながらサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は新規入居者様がおられないが、サービス導入の段階で入居前の生活歴を参考にしながらケアを行うよう努めている。入居してすぐは不安もあるので、ホームでの生活に慣れていただけるよう話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族の不安な思いや要望等も伺いながらケアに取り入れている。また、ご家族が話しやすい雰囲気を作ると共に積極的にコミュニケーションを図るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向をお伺いし、必要なサービスの提供に努めている。当ホームでの対応が困難な場合は、他のサービスを含めた対応ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護ではなくお手伝いするという気持ちで接し、また入居者様も職員を手伝ったり労わったりしてくださる。入居者様がしようとされていることを危ないからとすぐに止めるのではなく、信じて見守り、ご本人の能力を活かせるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時やお便りでご本人の様子や状態を報告し、意向や要望があれば伺っている。また、ご本人のことを一番に考え、ご家族、職員間で困っていることがあれば相談している。体調不良など特変があれば電話することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幼馴染みの方が会いに来てくださったり、馴染みの美容院やかかりつけの病院へ出かけたりしている。また、認知症と理解した上で受け入れてくださる美容院の方もおられ、ご本人の状態によって出かけたりホームに来ていただいたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら会話はもちろん作業やレクリエーションを行い、入居者様同士の交流をもっていただいている。食事席も個々の関係性をみて会話や助け合いができるような配置となっているが、構造上の課題はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に相談があった場合は、必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不安や不満、困っていることなど、ご本人が話したそうな時は時間をかけてお伺いするようにしている。一緒に過ごす中でその方がどんな方なのかを知ろうとし、職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴をお伺いしている。一緒に過ごしていても知らなかったお話をお伺いすることはよくあるので、ご本人はもちろんご家族との会話を大切に、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録をつけており、生活パターンや、日々の会話や様子、気づいたことなどを書きとめている。その情報を職員間で共有し、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、変わっていく状態や様子をふまえてご本人の力を活かせるプランを職員全体で意見を出し合い、作成している。ご本人からの意見は出ないことが多いが、ご家族の意見はできるだけお伺いするようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子や会話を記録したり、申し送りや連絡ノートを活用したりしながら常に最新の情報を職員間で共有している。その時の状態に応じてご本人にとって最善のケアを常に模索している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が必要としていることあれば、一人ひとりニーズは異なるので偏見を持たず、できるだけ広い視野をもって対応している。まずは職員間で検討し、可能な限りご本人が暮らしやすい環境となるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の都合で外出できていないが、ご家族をはじめ地域や店舗、施設の方々等のご協力をいただきながら、その方にとっての大切な繋がりを断ち切らないよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前から母体の医療機関にかかっている方が多いが、その他の医療機関の場合も継続している。また、必要に応じてご家族や他の医療機関とも連携しながら対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも看護師に報告したり、相談したりしている。看護師も入居者様の状態を日々気にかけてくださっているの、職員も安心できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院するということがなかったが、ご本人・ご家族が安心して治療を受けられるよう些細なことでも主治医に報告し、相談しながら対応している。入院の際も可能な限り職員が面会に行き、早期退院への支援を働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族の暫定的な意向を伺っている。終末期等の際は医師、ご家族、など関係者と話し合い、その後、職員全体でできるケアについての話し合い、取り組んでいる。今後は定期的に意向を聞くことも視野に入れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見直し整備しているが、定期的な訓練は行っていない。夜間などは職員の判断に委ねる場合もあるので、研修に参加したり、医師や看護師、管理者に指示を仰いだりしながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災マニュアル・災害マニュアルを整備し、年2回火災訓練やそれに合わせて防災訓練を行っている。想定外の災害が起こっているので様々な災害に備えたり、被災した場合の対応について検討したりする必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症により意思疎通が困難な方もおられるが、プライバシーにも配慮しながら、個々の性格に合わせた声かけや対応をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でコミュニケーションを図ることによってご本人様の意向を引き出せるよう努めている。また、我慢したり、想いを言葉にできなかつたりすることもあるので、短時間でもゆっくり話せる時間を作るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間など基本的な流れはあるが、ご本人が希望される場合は時間をずらしたり日を改めたりしている。その他の時間は自由に過ごしていただいているが、ほとんどの方はホールで過ごされていることが多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は、ほとんどの方がご自分で身だしなみを整えられている。パーマや髪染めをしたり、お化粧品やアクセサリーでおしゃれを楽しまれたりしている方もおられる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに合わせることはできていないが、代替品があればメニューを変更している。彩りや盛り付け、人によっては硬さや大きさにも配慮している。また、準備や片付けを率先して行ったださる方もおられる。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態でお出しし、食事量、水分量は随時、記録している。その日の状態に応じた食事量、水分量が摂取できるよう、時には代替にしたり、時間をずらして摂取したりしていただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方はご本人にお任せしているが、ケアが必要な方には職員が声をかけたり一緒に行ったりしている。また、定期的に歯科衛生士による口腔ケアや歯科受診に行かれる方もおられる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、夜間はおむつ使用の方もおられるが、日中は全入居様がトイレで排泄を行っている。また、個々の排泄パターンを把握し、自力で行くのが困難な方には定期的に誘導し、必要があれば介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分を工夫したり、運動等を行ったりしているが、ご高齢のため時々便秘になってしまう方もおられる。体調が影響していることもあるので主治医と相談しながら薬で排便コントロールすることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合により入浴ができなかったり、時間帯など希望に添えなかったりすることもある。体調や気分による場合は無理強いせず、時間をあけたり日を改めたりするなど配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分など、その日の状況に応じて休息をとっていただいている。夜間、眠れない時や不安なことがある時は、職員と一緒に話をしたりお茶を飲んだりすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や効用について薬剤の説明書を見たり、医師や看護師に尋ねたりしながら確認している。また、薬の変更や追加処方、服薬のタイミング等の変更があった場合は医師に確認したうえで職員全員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできること、できないことを把握し、家事作業や創作活動などを行う中で、達成感やできた喜びを感じていただけるよう配慮している。また、毎日、家事をしたりコーヒーを飲んだり、歌を唄ったり自室で過ごしたり、各々がそれぞれ自分らしい生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は職員の都合でほとんど外出できていない。しかし入居者様によってはご家族と一緒に出かけくださり、ご本人にとって良い気分転換になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理されている方もおられれば、難しくなりお預かりさせていただいた方もおられる。それぞれの状態、状況を見ながらご家族、職員で相談し、ご本人の希望に添えるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された場合はご家族の了解を得たうえで、やり取りができるよう支援している。1日に何度も電話がしたいという方には気持ちが和らぐよう話を聴き、ご家族に負担がかからないよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や温かみを感じられるような花や創作物を飾ったり、ホール内の温度調節をしたりしながら居心地の良い空間になるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席や和室、ソファなどがあり、お一人で過ごされたり、寄り添って話されたり各々ご自由に過ごされている。また、入居者様同士の人間関係を考慮し、テーブルの位置や座席を変更することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品等を持ち込んでいただき、個々に合った環境作りに配慮している。また不便のないようたくさんの物を持って来られる方もおられれば、逆に居室にこもらないようあまり物を持ち込まれない方もおり様々である。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや脱衣所など必要とする場所に手すりがないかたり、車椅子の方には居室出入り口が狭く使いにくかったりする所がある。ホーム内や室内は安全に移動できるよう、ベッドやタンス、ソファ等の配置に配慮している。		